

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	八戸工業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ハチノホコウギョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ(土木建築工学科)
	学部・研究科等名	土木建築工学科
	担当教職員名・役職	阿波 稔・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	6
	受入企業等数	71
	受入企業等名	八戸圏域水道企業団、株式会社田名部組
	インターンシップの分類	7.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	主に青森県内の受け入れ企業において土木・建築分野における施設の計画、設計、施工、維持管理などの関連業務に従事する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している。3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している。6.当該インターンシップは、選択科目として実施している。8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本インターンシップは、主に青森県内の建設系企業などでの実務を経験し、建設技術者として要求される知識・技術やコミュニケーション力、人間力(社会人基礎力)等についての理解を深めることを目的としている。具体的には、夏季休業期間を利用し、一定期間企業において研修を実施する。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学修では、社会人としてのマナー、コミュニケーション能力等を修得するとともに、企業とのマッチングや受入企業の研究、研修計画・内容の策定、履歴書作成を行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学修では、研修内容について報告書の作成とプレゼンテーションを行う。また、授業の到達度をルーブリックにより自己評価する。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	授業担当教員が受け入れ企業を訪問し、学生および企業の担当者と面談し、研修状況をヒヤリングする。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前・事後の研修報告書、企業からの評価、プレゼンテーションに基づき、以下についてルーブリックによる達成度を評価する。・実務の経験を通じて高度な水準の建設工学に関する知識を理解する・建設工学に関して修得している知識や技術と、建設技術者の業務遂行上必要な知識・技術の深さや広がりとのレベルの相違を認識する・実社会での応用展開・実践的対応を学び、職業意識、倫理観および社会人マナーなどを身につける
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	

㉔	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1つの企業等で連続した5日間のインターンシップを行う。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ企業の担当者とインターンシップのシラバスについて確認するとともに、研修の目的・内容、評価方法(ルーブリック)等の事前打合せを行う。また、事前研修では業界・企業研究を通じて、インターンシップの意義・目的について学生の理解を深める。さらに、インターンシップ後に受け入れ企業の担当者と反省会を行い、研修の成果や改善項目について共有し、次年度に向けたPDCAを実施する。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.hi-tech.ac.jp/syllabus/2017/
問い合わせ先	大学等名	八戸工業大学
	担当部署名	学務部 就職課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	栗橋 秀行
	電話番号	0178-25-8029
	メールアドレス	job@hi-tech.ac.jp